



藤井教祥副住職は、檀信徒の皆さんに見送られて荒行堂へ向かいました
(千葉県市川市の中山法華経寺で)

荒行

復刊第四号
2008年11月
身延別院発行
〒103-0001
東京都中央区
日本橋小伝馬町3-2
Tel 03-3661-3996
Fax 03-3663-2766

当院副住職が第再行



身延別院の副住職、藤井教祥師が十一月一日、中山法華経寺の日蓮宗大荒行堂に第再行として入行しました。来年二月十日までの百日間、水行と読経三昧の日々を送ります。

大荒行は、日蓮宗に伝わる祈禱法の伝授を受けるために行われます。一年で最も寒い季節での百日間、入行僧は午前三時前に起床し、午前三時から午後十一時まで七回の水行にのぞみます。水行の間は読経三昧。伝師から、修行の回数に応じて、初行・再行・三行・四行・五行とそれぞれの秘法の伝授を受けます。

睡眠時間は一日三時間弱、さらに食事は粥と味噌汁のみの粗末なもの。寒さ、飢え、睡眠不足。この想像を絶する極限状況を乗り越えた僧侶だけが、「修法師」として、日蓮宗独特の加持祈禱を許されます。

この日、法華経寺の境内には、早朝から師僧や留守を託す寺族・檀信徒が集い、入行僧を激励する姿があちこちで見られました。身延別院からも約二十人の寺族・檀信徒が副住職を囲み、「体に気をつけて」「がんばって」などと祈るように声をかけました。

午前九時、昇堂の号令とともに大荒行堂正面の扉が開くと、副住職を含め百七十七名の入行僧は、寺族・檀信徒に見送られ入堂しました。引き続き祖師堂で入行会が行われ、終了後、入行僧は、お題目を唱えながら法華経寺開基・富木日常上人御廟、奥の院を参拝し、荒行堂の瑞門の中へと消えていきました。副住職が無事に成満の日を迎えることを願ってやみません。(平)

御首題を いただく旅

第四回 鳥取・常忍寺

富木常忍公、御生誕の地

この夏、中学二年生の息子と山陰地方へ旅に出かけました。息子との旅行は本当に久々でした。小学校三、四年生ころまでは、一声かければ、どこにでもついてきたかわいい息子だったのですが、小学校高学年になると塾が忙しくなり、中学校入学後は私とほとんど口をきかなくなってしまうたのです。自我の芽生えというところもあるのでしょう。

山陰地方は息子にとって初めて訪れる

土地。「鳥取砂丘や松江城は見ておいた方がいいぞ!」という私の誘いの言葉に、珍しく応じたのでした。実際、初日に鳥取砂丘を訪れた時、息子は自然が造り出した砂漠のような雄大な風景に、すっかり驚いた様子でした。

砂丘から旅館へ向かう途中、私は鳥取市の街中にある常忍寺を訪ねました。常忍寺は日蓮聖



武井住職(左)、筆者の長男(中央)と筆者

人を支え続けた大檀越で中山法華経寺の開基・富木常忍公のご生誕の地に建つお寺です。徳川家康公側室・養珠院お万の方のご遺命により寛保二年(一七四二)に創立されました。

法華霊場千か寺参りを続けている私にとって、常忍寺は、ぜひとも訪ねたいと考えていたお寺です。ただ、観光寺院のような派手なお寺では

ありません。お寺に近づくに連れて、息子がどんな反応をするか気になりました。「つまらないから、早く旅館に行こうよ」などと言出しはしないか。

しかしお寺に到着すると、私のそんな心配は吹き飛びました。突然に訪問した私たち親子に対して、ご住職の武井大典さんが、お寺の歴史、本堂や庫裏の構造、天井の壁画のことなど、次々に説明してくれたからです。国の重要文化財に指定されている普賢十羅刹女画像(現在、東京国立博物館に貸出中とのこと)、日蓮聖人と日常上人(富木常忍公)のご真骨、日常上人の曼荼羅本尊……。ずつしりと重たい文化財の容器を息子は実際に手に持たされ、貴重な体験をかみしめていました。武井住職は「法華経寺の参道には、親戚が茶店を出しているんですよ。額堂(がくどう)という名前の店。ぜひ立ち寄ってみて」と言いました。常忍寺参拝は素晴らしい思い出になりました。法華経寺を参拝する楽しみも増えました。(平山徹・新聞記者)



加賀・能登へ団参



妙立寺の張田珠潮住職と記念撮影

身延別院の檀信徒さんの一行が十月四日から六日まで、石川県金沢市の妙立寺と同県羽咋市の本山・妙成寺を参拝に訪れました。参加したのは藤井教祥副住職、河野信成師をはじめ檀信徒さんら計二十三人。一行は羽田空港から空路、小松空港へ。日本三名園に数えられる金沢市の兼六園を訪ねた後、忍者寺として知られる妙立寺を参拝しました。妙立寺

妙立寺、妙成寺を参詣



妙成寺の藤井日恵貫首猊下を囲んで

は加賀三代藩主、前田利常公が寛永二十年(一六四三)金沢城近くから移築・建立した寺院です。隠し階段や落とし穴階段など複雑な仕掛けを備えた本堂の構造にだれも目を見張りました。二日目はバスで金沢市から羽咋市へ移動、本山・妙成寺を参拝しました。妙成寺は永仁二年(一一九四)、日蓮聖人の孫弟子、日像上人によって創建されました。また、身延別院の先代、藤井日光上人が第六十三世住職を務め、寺観を整えるなど当院ともゆかりの深い寺院です。本堂や五重塔など十棟の建物が国の重要文化財で、一行は古建築の美しさを味わいました。妙立寺、妙成寺の二つの寺院で御開帳を受け、健やかな毎日を送れるように祈りを捧げました。



写真上 憲吾君登場!

写真左 参拝の合間に
ハンカチの友禅染体験も

青年会が沖縄慰霊



写真上 ひめゆり平和祈念資料館の前で / 写真下 摩文仁の丘で

身延別院青年会は七月二十四日から二十
六日まで、二泊三日の日程で、沖縄県を訪
ねました。沖縄慰霊行脚の経験のある藤井
教祥副住職が青年会の会員に呼びかけて実
現しました。

一行は初日、沖縄県糸満市の「ひめゆり
の塔」を訪れ、防空壕などを見学しまし
た。続いて糸満市の「摩文仁の丘」を訪

摩文仁の丘で唱題

れ、うちわ太鼓をたたきながら、全員でお
自我偈、お題目を唱えました。二日目は海
水浴などを楽しみました。その夜は、久米
島にある「サイプレスリゾート久米島」に
宿泊しました。ここは、身延別院の総代さ
んが経営するホテルです。天気にも恵ま
れ、すばらしい三日間になりました。

参加者は以下の通り。岡田泰蔵、岡田慶
子、灘本会理、戸張愛子、加藤綾乃、龍祐
樹、龍佑企子、龍憲吾、藤井教祥(敬称
略)。



身延別院青年会は現在、二十
三十歳代の男女十六人で活動して
います。月に一回程度の例会を別
院地下ホールで開くほか、二か月
に一回程度の「子育て支援活
動」、各地のお寺などへの団体参
拝などを行っています。また、お
会式、節分など別院の年中行事の
奉仕活動を行っています。現在、お
会員を募集しています。興味のある
方、参加希望の方は身延別院の
青年会事務局までご連絡下さい。

一緒に活動しませんか

写真右上
沖縄美ら海水族館も
訪れました

写真右下
沖縄の海で海水浴を
楽しみました



寺の動き

今年もお稚児さん行列
七百二十七回お会式

身延別院恒例のお会式が十一月三日に開かれました。昨年に続き、今年もお稚児さん行列が小伝馬町一帯を練り歩き、法要に参列した約百三十人の檀信徒が日蓮聖人のご遺徳をしのびました。



お稚児さんが参列したお会式法要

今年の日蓮聖人の七百二十七回忌にあたります。身延別院では昨年、約二十年ぶりに復活させたお稚児さん行列のお子さんを今年も募集しました。檀信徒の子どもさん、お孫さんなど十七人がお稚児さんとして参加しました。

午後一時にお稚児さん行列はお寺を出発。小伝馬町交差点から本町三丁目交差点へ、そしてお寺までの約八百メートルの道のりを、お題目と団扇太鼓の音に合わせて練り歩きました。お稚児さんたちはお練りの後、本堂の前で藤井住職と一緒に記念撮影。引き続き行われた法要で、お稚児さんを代表して杉田大起君(五歳)が祭文を読み上げ、日蓮聖人の教えを大切に守っていくことを誓いました。

お会式の花作り奉仕

お会式に先立ち、身延別院の檀信徒の皆さんが十月十九、二十日、花作りに取り組みました。お会式では毎年、本堂の内外にピンクと白の薄紙で作った花をたくさん飾りつけます。その花をみんなで手分けして作り、竹や万灯にくくりつけるものです。

作業は地下ホールで行われました。初日の十九日は日曜日とあって、小学四年生の田中有希さんが明るく積極的に花作りに取り掛かってくれました。おしゃべりにも花が咲き、ほかの檀信徒さんもお元気をもらっていました。お手伝い頂いたのは以下の皆さんです。



地下ホールで行われたお会式の花作り

上野蘭子、加藤綾乃、阿久津喜美子、林好江、石渡日出子、龍佑企子、上遠野美津子、寺久保トシ子、勝見登志子、田中有希、平山徹、桑野千代子、齋地房子、奥野洋子、柴田昌子、灘本会理、小林聡子、小島喜恵子、杉田喬子、石田光子、埴多賀子、黒石鈴子、工藤祐子、藤井寛文、藤井孝子(敬称略)。ありがとうございました。

バザーへの協力をお願い

青年会では子育て支援のための活動費としてバザーに出店します。バザーで扱う品物(新品)をお譲り下さい。只今のところ、鈴木木きみ様、鈴木秀子様、永井忠弘様にご協力頂きました。ありがとうございます。

妙道院日光上人の三回忌法要

二〇〇六年九月二十一日に遷化された身延別院先代住職で身延山久遠寺第九十一世法主、藤井日光上人の三回忌法要が八月二十八日、当院で厳修されました。導師は東京都杉並区堀之内の本山妙法寺の嶋田日新山主が務め、法縁関係者や東京都東部宗務所管内寺院、当院の総代や世話人ら計約九十人が参列しました。

この後、都内の帝国ホテルに会場を移し、一般檀信徒やゆかりの方々を加えて二百人が参加。本山妙覚寺(千葉県鴨川市興津)の堀水教進貫首の導師で「献花式」が営まれました。法縁を代表して嶋田山主は「日光上人が発願した身延山の五重塔再建はいよいよ来年五月に落慶式の運びとなり、宗門が進めている身延山総登詣運動にも一層拍車がかかることでしょう。五重塔は日光上人でなければできなかったこと。その行動力、バイタリティーには頭が下がります」



参列者の前で挨拶をする当院住職

と挨拶されました。

最後に藤井住職が「私は十二歳の時に弟子入りしました。師範の教導はなかなか厳しいものでした。しかしそのおかげで今日の私があり、たいへん感謝しています。師範への報恩のためにも宗門と寺門興隆に全力を尽くしたい」と述べました。

秋季彼岸会法要に五十人

身延別院の秋季彼岸会施餓鬼法要が九月二十六日午後一時から、本堂で営まれました。檀信徒約五十人が本堂に集い、提婆達多品などのお経を全員で読誦しました。そして、ご先祖をはじめ、ご縁のあった方々の塔婆を供養をしました。その後に住職の法話。終了後に地下ホールで御供養がありました。

豆入れ奉仕のお願い

来年の追儺式(節分の豆まき)で用いる豆の袋詰め作業を、一月十九、二十日に行います。七センチ四方ほどの小さなビニールの袋に、さかづき一杯分ほどの豆を詰め、袋の口を丁寧に折りたたみ、ホチキスで留めていく作業です。みんなでおしゃべりしながらの手作業は、とても楽しいものです。一日と言わず、一時間でも二時間でも、都合のつく時間がかまいません。お手伝いいただける方、どうぞよろしくお願います。

今後の予定

- 十二月 一日(月) 願満祖師御開帳、終日
- 十三日(土) 十三日講法要並法話 午後一時より
- 一月 一日(木)～三日(土) 新年祈禱会
- 十一日(日) **荒行堂見舞、詳細後日**
- 十二日(月) 初十三日講法要並法話 午後一時より
- 十九日(月) 初甲子 大黒天祭礼 午後一時より
- 十九日、二十日(火) 節分豆入れ 両日午前九時より
- 二月 三日(火) 節分会並星祭り 午後一時より

編集後記

冬の足音が聞こえてくるようなこの頃です。第四号をお送りします。今号も平山さん、上野さんに助けていただきました。今回は平山さんのおかげで、小生以外の原稿ははやばよとできていたのに、小生が足を引っ張ってしまいました。今号は日光法主の三回忌、能登団参、青年会の沖繩慰霊、副住職の荒行堂入行、お会式など、特記すべきことが多く、充実した内容となりました。次の発行は節分を過ぎて、副住職の帰山式後を予定しています。(潮)